



平成 25 年 3 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社プリンシパル・コーポレーション  
代表者名 代表取締役社長 菊地 博紀  
(JASDAQ・コード 3587)  
問合せ先 役職・氏名 取締役 松田 高宏  
電話 03-3582-3190(代)

## 食品部門の事業の一部譲渡に関するお知らせ

当社及び当社の連結子会社である株式会社ハミングステージは、本日取締役会で決議し、同社の運営する「ハミングステージ」の全 5 店舗（桜新町店、観音店、パークシティ店、宮内店、上作延店）に係るスーパーマーケット事業について、平成 25 年 3 月 21 日を譲渡日として、譲渡日までに賃貸借契約等当該事業を営む上で必要な相手先からの地位移転の承諾が得られることを前提に、株式会社マルダイ（川崎市中原区、代表取締役社長：中山芳彦）に対して譲渡する契約を締結いたしましたのでお知らせいたします。これにより、当社グループの食品部門のうち、当社グループが保有するスーパーマーケットの全店舗を売却することとなります。

### 記

#### 1. 事業譲渡の理由

当社グループは、長年に渡り進めておりました天然資源開発投資事業につき、平成 24 年 3 月期において撤退の方針を決定し、平成 24 年 11 月 30 日に「固定資産の譲渡及びそれに伴う特別利益の発生に関するお知らせ」で開示いたしましたとおりバルザイク鉱区の権益の売却を最後に同事業から撤退いたしました。また、同事業に代わる主幹事業として食品事業を展開し、平成 22 年 4 月 12 日の取締役会決議により、株式会社ハミングステージを完全子会社化し、現在ではスーパーマーケット 5 店舗を直営店化し、仕入れから消費者への販売までの一環体制の強化を図ってまいりました。

しかしながら、ハミングステージの資金力不足による生鮮食品をはじめとする商品の供給能力の低下、顧客数の低迷、設備投資等が行えない等の要因による売上高の低迷及び営業損失が数年にわたり継続しており、結果として当社グループ全体の損失を拡大させる最も大きな要因となっております。

当該状況を打開するための具体的な方針として、大規模な資本投下による事業の立て直しを検討してまいりました。

具体的には、平成 24 年 6 月 8 日に「第三者割当により発行される新株予約権の募集に関するお知らせ」にて開示致しましたとおり総額 720 百万円の新株予約権の発行を行い、その資金使途の一部として過去の未払債務の精算を行うことで、取引業者等との取引を継続させ、事業を正常化させることを企図致しました。当該ファイナンスにより調達した資金によって、過去の未払債務の支払いを行いました。平成 24 年 11 月 30 日に開示いたしました「新株式予約権発行に関する資金使途変更のお知らせ」のとおり、今般の新株予約権の発行後、借入金の返済に関して、借入先と

の協議の結果、当初の想定よりも早期に返済せねばならない借入額が増加しました。

その結果、資金不足により、当初の想定通りに支払うことができない事態となりました。なお、残額につきましては、分割による支払に応じて頂けることとなったため、今後、分割にて支払うこととしておりました。

以上のとおり、取引業者等との取引を継続させており、仕入れの確保は継続できているものの、一方で、売上に関しては、一旦顧客の信頼を失ったことによる影響は大きく、顧客数及び顧客単価について、当社の想定通りとならない状況が継続しておりました。

この状況を改善するため、再度大規模な資本投下による事業の立て直しを検討した結果、平成 25 年 2 月 6 日に開示致しました「第三者割当により発行される新株予約権の募集に関するお知らせ」のとおり、総額 1,069 百万円の新株予約権の発行による資金調達（以下、本ファイナンス）を決定致し、資金使途として、株式会社ハミングステージの運転資金として 64 百万円、未払い債務の返済として 105 百万円、事業増強費用として 330 百万円をそれぞれ充てることを予定しておりますが、一方で、本ファイナンスの調達のタイミングは、新株予約権の割当先の権利行使に依拠されるものであり、当社の想定するタイミングで必ずしも資金調達が行われると限らないこと、新株予約権の権利行使が行われない場合、ハミングステージの事業のてこ入れがなされないことで、当面は事業の営業損失が継続し続けると想定しております。また調達した金額は①運転資金 249,179 千円、②当社未払債務の支払 61,722 千円、③ハミングステージの運転資金 64,293 千円、④ハミングステージの未払債務の支払 105,432 千円、⑤ハミングステージの事業増強費用 330,000 千円、⑥借入金の返済 181,004 千円、⑦当社既存事業増強費用 20,000 千円の順に支出していく予定であることから、ハミングステージの事業増強費用の全額が捻出されるまでには、少なくとも 810,626 千円の権利行使が必要であると考えております。一方で、本ファイナンスにおける平成 25 年 3 月 14 日現在の資金調達額は 28,080 千円であり、直近の株価推移が、権利行使価額（なお、権利行使価額については、当初行使価額 12 円から平成 25 年 3 月 5 日に修正を行い 9 円としております。また、平成 25 年 2 月 6 日に 5 株を 1 株とする株式併合の取締役会決議を行っており、株式併合後の権利行使価額は 45 円としております。）を大きく上回っていない状況であることから、権利行使が当社の想定通りに進んでおらず、ハミングステージの事業増強費用の全額が捻出されるまでには、権利行使に相応の期間を要する可能性があること、また、事業増強費用の支出を行い、その結果事業が回復するまでには、一定の期間を要すると想定しております。

なお、本ファイナンスの資金使途によるハミングステージの事業増強費用 330,000 千円については、仕入業者からの信頼回復、品揃え拡充による売上増加、及び仕入単価の低減による利益率の改善を実現すべく仕入保証金の積み増し資金として 130,000 千円、照明器具の総入れ替え、大規模なレイアウト変更、冷蔵・冷凍施設の交換を行うことによるコスト削減、リピート客の獲得等を実現すべく既存店舗改装資金として 100,000 千円、神奈川・東京エリアで 2～3 店舗の新規店舗買取資金として 100,000 千円の計 330,000 千円を計画しておりました。

また、当社の平成 24 年 3 月末日における純資産残高は 476 百万円の債務超過であり、平成 25 年 3 月期第 3 四半期末日における純資産残高は 40 百万円の債務超過であります。平成 25 年 3 月期末までに債務超過を解消しなければ、大阪証券取引所が定める「JASDAQ における有価証券上場規程」第 47 条第 1 項第 3 号の規定により、上場廃止となります。平成 25 年 2 月 6 日に開示致しました「通期予想の修正に関するお知らせ」のとおり、現状のままでは平成 25 年 3 月期第 3 四半期以降において当期純損失の計上が続く見込みであるため、平成 25 年 3 月末日に再び債務超過に陥る可能性が高く、上場廃止になる可能性が高いと考えております。

そこで外部資本の調達等の施策を取ることで、資本増強につながることから、本ファイナンスを行っておりますが、割当先との交渉の結果、割当先の意向としては、払込時に一括して資金が拠出することは難いため、株価の状況を勘案しながら権利行使を行うことができる新株予約権によるスキームでない限り、引き受けは難しいとの意向を受けたことから、新株予約権による資金調達とすることと致しました。本ファイナンスのスキームが新株予約権の発

行である以上、新株予約権の権利行使がなされない限りは、資本の増強につながらず、結果として、債務超過の解消が確実とならないため、本ファイナンスによる資本増強を行う一方で、ハミングステージの事業譲渡の交渉も継続して進めることで、上場廃止の回避を図ることとしておりました。

なお、上述のとおり、本ファイナンスにおける平成25年3月14日現在の資金調達額は28,080千円であることから、債務超過の解消のためには、平成25年3月末日までに相応の権利行使が必要となってまいります。

よって、当社グループの今後の事業計画の選択肢としてのみならず、債務超過の解消により上場廃止を回避するためにも、兼ねてから事業譲渡先の模索を行っておりました。

今般の事業譲渡先である株式会社マルダイの代表取締役である中山芳彦氏は、長年に亘り、スーパーマーケットチェーン業界に深い知見を有しております。

また、当社としては、平成24年11月頃よりハミングステージ5店舗の事業譲渡先として協議、交渉を行い、譲渡価格はもとより、ハミングステージ5店舗で就業する従業員については基本的に継続して雇用頂けること、当該5店舗の譲渡後の事業展開について伺った結果、株式会社ハミングステージ取締役会にて決議を行い、連結子会社の事業譲渡として当社としても承諾を致しました。

## 2. 事業譲渡の内容

### (1) 食品部門の内容

スーパーマーケット5店舗及び飲食店2店舗の運営を行っております。なお、今般譲渡の対象とする事業につきましては、スーパーマーケット5店舗及び付随する資産、負債となります。

### (2) 食品部門全体の経営成績

	食品部門 平成24年3月期 実績(a)	当社 平成24年3月期 実績(b)	比 率 (a/b)
売上高	1,857 百万円	1,908 百万円	97.3%
営業損失	△300 百万円	△496 百万円	－%
経常損失	△299 百万円	△618 百万円	－%
当期純損失	△466 百万円	△813 百万円	－%

※食品部門の事業の大半は、当該事業譲渡の対象となるスーパーマーケット「ハミングステージ」の運営であります。

### (ご参考)

#### 株式会社ハミングステージ単体の経営成績

	株式会社 ハミングステージ 平成24年3月期 実績(a)	当社 平成24年3月期 実績(b)	比 率 (a/b)
売上高	1,780 百万円	1,908 百万円	93.2%
営業損失	△176 百万円	△496 百万円	－%
経常損失	△205 百万円	△618 百万円	－%
当期純損失	△308 百万円	△813 百万円	－%

(3) 譲渡資産、負債の項目および金額

金額については、本日時点で確定していないため、確定次第、別途お知らせすることといたします。

(4) 譲渡対価

譲渡対価： 譲渡金額は、当該事業の帳簿価額約 265 百万円を下回らないことを前提として、事業譲渡の交渉を行ってまいりました。株式会社マルダイは、店舗数や各店舗の立地条件、敷地面積による将来的な収益性を総合的に勘案し、譲渡金額は 450 百万円の提示を行っております。当該金額の提示を受け、450 百万円を当該事業の基本譲渡対価といたしました。また当該事業に関連する資産のうち現預金、売掛金、棚卸資産、保証金と対象として、平成 24 年 9 月末時点の残高を基準日として、事業譲渡時における当該資産の残高が基準日よりも超過していた場合には超過分を譲渡対価に増額するものとし、当該資産の残高が基準日よりも不足していた場合には、譲渡対価を減額といたします。

決済方法： 現金によるものであり、平成 25 年 3 月 21 日に 420 百万円に引渡に伴う資産にかかる調整額を加味した額を受領し、平成 25 年 4 月 20 日に 30 百万円に引渡に伴う資産にかかる調整額を加味した額を受領するものといたします。

4. 譲渡する相手先の概要

①	商号	株式会社マルダイ	
②	本店所在地	川崎市中原区宮内 4-7-9	
③	代表者の役職・氏名	代表取締役 中山 芳彦	
④	事業内容	食品業	
⑤	資本金の額	50,000 千円	
⑥	設立年月日	平成 25 年 2 月 26 日	
⑦	株主及び持分比率	中山 芳彦 100%	
⑧	決算期	3 月	
⑨	従業員数	5 名	
⑩	当社との関係等	資本関係	該当事項はありません。
		人的関係	該当事項はありません。
		取引関係	該当事項はありません。
		関連当事者への該当状況	該当事項はありません。

※最近 3 年間の純資産総資産の経営成績及び財政状態は、設立後間もないためありません。

5. 譲渡の日程

- (1) 取締役会決議及びハミングステージ株主総会決議 平成 25 年 3 月 15 日
- (2) 事業譲渡契約締結日 平成 25 年 3 月 15 日
- (3) 事業譲渡日 平成 25 年 3 月 21 日
- (4) 対価の受け渡し日 平成 25 年 3 月 21 日 420 百万円及び資産譲渡に伴う調整額  
平成 25 年 4 月 20 日 30 百万円及び資産譲渡に伴う調整額

6. 会計処理の概要

当該事業譲渡に伴う譲渡対価を 450 百万円とした場合、平成 25 年 3 月期において、事業譲渡益として 185 百万円が

発生する見込みではありますが、引き渡す資産の状況により、金額は変更となります。

## 7. 今後の見通し

### (1) 今後の事業展開について

当該事業譲渡により、当社グループの主幹事業である食品事業の大部分でありながらも、これまで継続して営業損失を計上していた事業の譲渡が行われることとなり、当社の事業構成に大きく影響が出る見込みとなります。なお、事業譲渡後の当社グループの総資産は、平成 24 年 12 月末日現在における連結財務諸表において 226,554 千円が残存することとなります。

また、当該事業の売却を行った結果、売上を恒常的に計上している事業として、飲食店 2 店舗「ベジスタ赤坂」及び「渋谷 旅籠」の運営のみとなります。今期の見通しについては、2 店舗ともに売上単価の伸び悩み、コストカットによる原価率の引き下げが十分に行われていない等の理由により、「ベジスタ」については、売上高 7,226 万円、営業損失 4,210 万円、経常損失 4,219 万円であり、「旅籠」については、売上高 7,546 万円、営業損失 4,112 万円、経常損失 4,169 万円であります。今後の見通しにつきましては、早急に事業基盤の整備を行い、既存事業の拡充、及び新規事業の検討を行ってまいります。

具体的には「ベジスタ」に関しましては流行に敏感で消費意欲の高い女性向けの店舗へと業態変更する予定です。

スタンディング席を多数用意することで収容可能客数のキャパシティを増やし女性向けのメニューを増やし女性の集客数を大幅に増やす予定です。「旅籠」に関しましてはスタッフ教育にさらに力をいれより良いサービスの提供を行うことで顧客満足度を高めていきます。和食・鉄板焼きという若者の街「渋谷」では珍しいジャンルであるため、集客に力をいれ一度きて戴いたお客様には何度も足を運んでいただけるお店づくりをする予定です。

集客方法につきましても、両店舗とも土地柄から O2O\*マーケティングを有効活用することでこれまで以上の集客が見込める予定であります。

なお、当該事業のてこ入れにより、平成 26 年 3 月期における飲食店 2 店舗の業績として、ベジスタ赤坂については売上高 1 億円を目指し、渋谷旅籠については、売上高 8,600 万円を数値目標として掲げ、事業を推進してまいります。

\*O2O(オーツーオー)とは、オンライン(インターネット)の情報がオフライン(実世界)の購買活動に影響を与えたり、オンラインからオフラインへと生活者の行動を促す施策を指す、主に E コマースの分野で使われていた概念であり、E コマースに限らず幅広い分野で、「オンラインとオフラインが融合し相互に影響を及ぼす」仕組みや状況を表す言葉として使われるようになっていくといった意味の用語であります。

### (2) 本ファイナンスに対する影響について

また、本ファイナンス資金使途として、株式会社ハミングステージの運転資金として 64 百万円、未払債務の返済として 105 百万円、事業増強費用として 330 百万円をそれぞれ充てることを予定しておりますが、未払債務については当社グループに引き続き債務が残るため、本ファイナンスの資金にて支払いを行うことを予定しております。また、本件事業譲渡により株式会社ハミングステージの事業増強費用として 330 百万円については資金拠出が不要となります。そのため、資本投下を行わないこととした分の資金使途については、資金使途の変更、又は新株予約権の取得条項の発動を含め、新株予約権の取得条項を発動することを含め、当該事業譲渡日である平成 25 年 3 月 21 日までに、当社グループ全体の資金需要を勘案し、適宜決定してまいります。

以上